

2022年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2023/9/26

団体名	NPO法人にじいろクロン	活動タイトル	あたたかく見守ってもらえる地域・石巻プロジェクト			
<p align="center">望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p align="center">■活動風景</p>			
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>当団体の実現したいビジョンは「子どもや子育てをあたたく見守ってもらえる社会」（子どもや子育てで理解ある社会状況）の実現である。子どもの育ちや、子育ての責任を子どもや養育者の問題としてだけでなく、地域や社会全体の責任（社会課題）として捉え、子どもの育ちを見守る当事者意識を持った社会状況をめざす。</p>		<p align="center">プログラム参加者による交流会の様子</p>	<p>4月24日23名、2月6日24名の参加があり託児ボランティア育成活動につながった。</p> 		
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>「東日本大震災の被災地を子どもたちとともに居場所づくりを通して心豊かなまちにします」 具体的には子どもと、子どもを取りまく人々が安心して過ごすことの出来る居場所づくり活動と子どもを見守るコミュニティ作り活動。</p>			<p align="center">8月28日児童虐待防止に関する勉強会及び報告会の様子</p> 		
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい人的資源：・ボランティアを含む、多様な人々をコーディネートできる人材。 ・子どもや養育者の気持ちに寄り添い、サポートできる人材。 ・広報、事務局業務を担える人材。 ●望ましい物的資源：・学校や行政と協働できるネットワーク。 ・企業や子ども支援団体、地縁・地域組織との連携。 ●望ましい活動資金：・自主財源（寄付・賛助会費・自主事業）を確保し併せて活動に見合った公的資金（補助金）の活用。 ●望ましい情報：・団体スタッフが子どもの権利を理解し、子どもと養育者が守られるべき存在であることを周知する。 ・団体の事業運営についてスタッフ全体で意見発言でき、情報共有しながら進められること。 					
<p align="center">■活動報告</p>			<p align="center">■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>			
<p>【ポジティブ・ディシプリン講座開催、周知活動】 団体が活動重点地域としている石巻市釜地区において、年間2回のプログラム、年1回の体験版の開催を行った。怒鳴らないたたかない子育てについて広く周知につなげるためチラシ配布の他、SNSを利用した周知活動も行った。</p> <p>【地域の居場所づくり】 講座参加者の交流と相互保育の場として託児会場を開放し、地域で子どもを見守ってもらい、自身も見守る側になるなどの循環できる仕組みが定着した。</p> <p>【行政、他団体との連携基盤づくり】 石巻市総合相談センターとの連携を継続させた。報告会開催時には行政職員、市内子育て支援団体スタッフ、市議会議員の参加があり連携基盤づくりにつながった。仙台市内の関係団体との連携も深まっている。</p> <p>【活動基盤強化、事業運営における人材の確保と育成】 プログラム参加者が託児ボランティア、地域ボランティア、本事業に主体的にかかわる人材として参加できる仕組み、社会参加の機会づくりを行った。</p>			<p>【ポジティブ・ディシプリン講座開催、周知活動】 年間2回のプログラム開催により、参加者は子どもの視点で子育て向き合う考え方を学んだことによる行動変容がみられた。児童虐待予防活動の周知を目的としチラシ配布の間口を広めたことやSNS周知を行ったことにより、本事業を知るきっかけづくりにつながった。</p> <p>【地域の居場所づくり】 プログラム開催時託児室の他、参加者が集まれる交流会を年2回開催した。地域で子どもを見守るコミュニティの基盤作り、団体他事業への主体的な参加にもつながった。</p> <p>【行政、他団体との連携基盤づくり】 行政や子育て支援団体の協力で児童虐待予防に関する勉強会及び報告会を開催し、協働団体である日本事務局きづとの連携強化、市内子育て支援団体との連携を構築できた。</p> <p>【活動基盤強化、事業運営における人材の確保と育成】 ボランティア育成活動によって新たな託児ボランティアが9名増えた。団体の別事業にも関わる地域ボランティアとして主体的に関わる人材育成ができた。</p>			<p>11団体34名の参加があり、連携団体事業報告も実施した。</p>
<p align="center">■事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p align="center">■望ましい社会状況を達成するための課題</p>		<p align="center">■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>	
<p>・プログラム参加者アンケートから、子育てにおける養育者の抱える不安感や孤立感がストレスとなり養育者は心の余裕がなくなり気持ちが疲弊し追い込まれていることがわかった。参加者は自身の行動変容から子育ての不安を減らすためには、子育てを学習する必要があるとの回答につながったと考えられる。</p> <p>・プログラム参加者が、託児ボランティアとして協力できる仕組みによって地域交流が継続させられるとともに、相互保育を体験し、自身の子育ての不安を軽減しながら、地域の子育てを見守る人材として育成につながり、さらに孤立を減らす活動となった。</p> <p>・勉強会の開催において、子育て支援関係団体の活動報告を行ってもらうことにより当事者意識をもって参加してもらうことができた。どの団体も地域の見守りなど児童虐待予防活動と関連があることに気づきがあった。</p> <p>・報告会において、プログラムの内容について子育て支援団体スタッフに向けて周知できたことにより参加者募集の協力体制が強まった。</p>			<p>「子どもや子育てをあたたく見守ってもらえる社会」の実現に向けた本事業の取り組みによって、参加者は罰を用いない子育てへの理解を深め、育児ストレスからの児童虐待のリスク軽減、地域の子育てを見守る人材の育成につながった。勉強会では知的障がい、重い障害の事例、愛着障害など支援が必要な状況が多様化しており、「できない人を責めない」「子育ての責任を母親だけに問わない」ことや、今まで通りの連携も大事ではあるが、それぞれの団体がどこに「主」を置いて、活動しているかの共有、各団体の役割を明確にすることで団体同士で同じ目的、目標をもって課題解決へつなげていく必要性が見出された。</p> <p>・プログラム参加者アンケート結果から、子育ての考え方を学ぶことにより、参加者の不安軽減につながり安心感が持てるようになることがわかった。今後もプログラム開催を継続させるための、行政や他団体、企業寄付等資金面での連携も不可欠と考えているがまだそのノウハウが確立されていない。参加者募集方法にも工夫が必要である。</p>			<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>プログラム参加者によって子育てに対する安心感の向上(92%)、勉強会の開催12団体、34名の参加があり連携強化</p> <p align="right">を達成しました。</p>
<p align="center">■受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p align="center">■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>			
<p>アンケート回答記述より「日々の生活の中で気づきが増えた」「自分を見つめなおす機会になった」「親はこうでなければいけない、という理想通りでなくても良いと思えた」「子育ては一人ではできないと改めて思った」「プログラムに参加してたくさんのヒントをもらえた」など参加者には前向きな行動変容がみられた。</p>			<p>アンケート回答記述より「日々の生活の中で気づきが増えた」「自分を見つめなおす機会になった」「親はこうでなければいけない、という理想通りでなくても良いと思えた」「子育ては一人ではできないと改めて思った」「プログラムに参加してたくさんのヒントをもらえた」など参加者には前向きな行動変容がみられた。</p>			